

あしよろ・ハードサポート通信

足寄も桜が咲き、朝晩はまだ冷えますが日中はずいぶん暖かくなりました。これから気温が上がっていくと、害虫の活動も活発になっていきます。害虫駆除を始める頃合いということで、先月は日本全薬工業（株）社のご協力のもと、住化エンバイロメンタルサイエンス（株）八木智彦氏に「家畜害虫の生体と防除法」についてお話をいただきました。勉強会では、八木氏から「四畳半の部屋に蚊が200匹くらい飛んでいて、そこで寝なければならないとすると、どうでしょうか？」という投げかけがありました。耳元での“プーン”という不快な羽音。吸血。…ちょっと想像するだけでもかゆくなるような、相当なストレスがかかる状況です。そこでは寝たくない！と思いました。

◆ ハエの防除

サシバエによる被害

吸血によるストレスにより

泌乳量；10～20%

増体量；10～25%

減少させる。

牛白血病ウイルス（BLV）を機械的に媒介すると目されている。



牛舎で問題になるハエは主にイエバエとサシバエの2種類で、どちらも牛に強いストレスを与えます。ストレスに加えて、牛はできるだけ吸血を避けようと集団で固まって立って過ごすようになり、その結果、採食や休息の時間が減って泌乳量や増体量を減少させます。

サシバエの寿命は短く15日間程度で、その一生に約600個の卵を産みます。卵は気温26℃だと約20日で羽化し、羽化後7日目から産卵し始めます。暖かくなるにつれてサイクルが早まり、かなりのスピードで増えていきます。そのため、サシバエ対策は成虫駆除と併せて卵や幼虫のうちに叩くことが肝心です。

発生源対策のポイント

1. 環境を整備する

- ・ 掃除・除糞の徹底
- ・ 堆肥を切り替える

ハエ防除の基本は環境整備である。

2. 薬剤により発生源を処理する

- ・ 用法用量を守って使用する
- ・ 薬剤はローテーションで使用する



（左図）発生源対策のポイント。

ハエは家畜の糞便や堆肥から発生しますが、堆肥の温度が43℃を越えると卵や幼虫は死んでしまうため、堆肥の切り返しはハエの発生数を減らすことにつながります。また、草むらは成虫の隠れ家になるため、牛舎周りの草刈りで住みかを減らすのも効果的です。

◆ 殺虫剤（幼虫対策）

卵や幼虫（ウジ）駆除に、昆虫成長制御剤「サイクラテ SG」が紹介されました。

サイクラテの効果的な使い方



牛舎の端や柱周りなどの牛が踏まない場所、糞の取り残しがある場所を徹底的に散布！





つなぎ牛舎はバーンクリーナーに！

*サイクラテSG；1㎡あたり粒剤20gを直接散布もしくは50倍希釈液1Lを散布。
 → 水1Lに20gを溶かして1㎡分です。（幅30cmの場合、3.3m分に相当）
 *サイクラテSG5；1㎡あたり500倍希釈液1Lを散布。
 *目安として牛糞が10cm積もるごとに散布してください。



上の写真の場所の他に重要な散布ポイントとして、堆肥場→希釈液の散布が効果的、子牛のハッチ→粒剤のままハッチの端10cmに撒く、水場やエサ場のグチャグチャした所、いつも敷料が濡れている所、雨が吹き込む所、が示されていました。

気温が上がり始めた今は、まさにウジ退治を始める時期です。牧場に合った取り組みをスタートしていただけたらと思います。（久富聡子）

【乳房炎ワクチンが近々、発売されるそうです】.....

共立製薬（株）社が乳房炎ワクチン「スタートバック」を発売予定です。大腸菌（CO）、黄色ブドウ球菌（SA）、表皮ブドウ球菌（CNS）の乳房炎がターゲットで、新規感染を抑え、症状の重篤化をやわらげる効果が期待できるそうです。1乳期3回のワクチン接種（分娩予定日45日前と10日前、分娩予定日52日後）が必要です。乳房炎は予防が大前提ですが、既にSAが多い酪農場では補助的な役割を果たしてくれるのではないのでしょうか。発売時期等の詳細は共立製薬社、MPアグロ社へお問い合わせください。

【勉強会について】.....

今年は粗飼料収穫シーズンは勉強会をお休みします。9～10月頃から再開予定です。秋以降の勉強会テーマのリクエストがあれば、ぜひお聞かせください。